

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ

外から見ることで知った「日本」、 そして「自分」



岩手県商工労働観光部産業経済交流課 加藤 信行

稀有な体験!

企画調査課で1年、クレアパリ事務所で3年、計4年間クレアにお世話になりました。「驚」という意味で、真っ先に思い出すのは、パリ赴任1年目の12月に見舞われた自宅アパートの火災です。一度寝るとなかなか起きない私ではありますが、この時ばかりは、猛烈な煙のにおいに飛び起きました。2階直下が火元であったため、熱と煙が直撃し、時間が経つにつれ視野が狭くなり、意識が遠のいていったことを覚えています。

階下の住人の方が救助に来てくださり事なきを得たのですが、この間、有害物質を吸い込んだせいで、数か月間、だるさが抜けないなど体調不良に見舞われました。また、消防士が私のアパートの窓ガラスを割って消火活動を行ったため、部屋全体に広がったスス掃除や修繕に伴う火災保険会社、大家とのハードな交渉があったり…フランス語もメンタルも大変鍛えられました。火災直後の治療のため、パリで救急車やパトカーに乗ったことも、今となっては貴重な経験と感じています。

業務においては、日仏友好160年を記念し開催されたフランスのジャポニスム2018の対応がありクレアパリで日本の工芸品の展示およびワークショップを実施したほか、本県の展示支援などにも従事しました。また、パリ事務所の引越し担当など、多くの稀有な経験を得ることが出来ました。

パリでの3年間は、私にとって、これまでとは全く異なる環境（言語・習慣）、仕事の進め方、生活に伴うトラブル時の現地会社との交渉などを通し、語学力や精神力が鍛えられたとともに、自らの作法がいかにか「日本的なもの」であるのかを体感した時間でした。

「当たり前」が相対化される体験を積み重ねることで、自らの視座の特異性を意識しながら、別の文化・習慣を



ジャポニスム2018 出展（岩手県）

持つ人にも伝わるように工夫する習慣が身につくなど、国際的な事業を行う際に必要となる力を鍛えることができたように思っています。

帰国後もつながるご縁

フランスでのご縁により、帰国後には、欧州と日本の経済交流を促進するプロジェクトの日本側担当として、フランスの新聞に個人名が掲載されるなど、日欧交流に貢献でき、一つの恩返しが出来たかなと嬉しく思っております。それ以外にも、地域・国籍や文化的相違を越えて、文字通り「人と人」としてつながった関係は、変わることなく続いており、派遣元の欧州事業実施時に、とても大きな力となっています。改めてご縁をいただいた皆様に深く感謝申し上げます。

プロフィール・ほか

- 所属：岩手県商工労働観光部産業経済交流課
海外マーケット担当
- クレア時代の所属：
2015年4月～2016年3月
東京本部総務部企画調査課
2016年4月～2019年3月 パリ事務所
2020年4月～現職